

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

- | | | | |
|-------------------|---|--------------|---|
| ○良い：15P以上 | ↑ | ○やや良い：6P～14P | ↗ |
| ○変わらない（普通）：△5P～5P | → | | |
| ○やや悪い：△6P～△14P | ↘ | ○悪い：△15P以下 | ↓ |

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

(1) 製造業 10 <やや良い> ↗

景況感の今期 DI 値は 10P の水準を保っていますが、「悪い」という声が増え、前期比△11P の悪化となりました。売上額の DI 値 12P（前期比△14P）、収益の DI 値△12P（前期比△15P）ともに悪化しています。次期も売上額の DI 値は若干の低下が予想されていますが、収益については、DI 値 3P と今期比+15P の改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・円安のおかげで活況である。中国の賃金上昇で国内に注文が戻ってきている。
- ・上場会社からの受注が多く好況が続いている。技術開発のため大学との共同研究も開始した。
- ・仕入値の上昇後も据え置いてきた販売価格の値上げに踏み切り、売上は前年比 5% 増加した。
- ・大手メーカーからの受注が増勢にある。ただし、円安による海外原材料の調達コスト高騰があり採算性には十分注意している。
- ・市内の仕事は少ないが、横浜・東京・埼玉で工場やビル建設に関連する受注が来年まで見込めており、下請けにもかなり仕事をだしている。
- ・人件費・材料費の上昇分を見積りに載せた結果、売上は増加しているが、収益は頭打ちである。

(2) 建設業 △3 <変わらない> →

景況感 DI 値△3P（前期比+4P）、売上額 DI 値△5P（同±0）とほぼ横ばいです。収益 DI 値は△11P ながら+8P 改善しました。雇用人員△29P、資金繰り△23P は厳しさが続いています。次期の景況感 DI 値は 14P（+17P）で、特に売上額 26P（+31P）と改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・受注は増加しているが、継続的ではなく、職人を増やすまでには至っていない。
- ・第一四半期は調整期にあたり、売上は芳しくない。今後は、不透明感はあるものの、前年同期以上の売上を確保する見込み。
- ・大型受注に恵まれ売上は順調に推移した。材料費高騰によるコスト負担増加および先行支払いにより資金繰りは厳しい。
- ・今期の売上は前年比 15% 増加した。コンスタントに受注を確保しており、当面は安定している。
- ・横須賀市内は受注が減少傾向にあり、横浜・川崎・東京の工事受注を積極的に行っている。

(3) 卸・小売業 $\Delta 37$ <悪い>



景況感 DI 値 $\Delta 37$ P (前期比 $\Delta 20$ P)、売上額 $\Delta 39$ P (同 $\Delta 12$ P)と悪化し、厳しい状態が続きました。次期は「悪い」という声が減り、景況感 DI 値は $\Delta 20$ Pの低位ながら、今期比では+17Pで、売上額 (今期比+22P)、収益 (同+16P)ともに改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・消費が5月の連休以降落ち込んできた。スーパー等の安売り競争が酒類販売に影響している。
- ・仕入価格の上昇や他店との競合で業績は伸び悩んでいる。今後ネット販売にも注力する方針。
- ・主力の防衛施設庁やベース向けの受注が減少、提案営業により新規顧客獲得により注力していく。
- ・長年の取引先の廃業が商品仕入れに影響している。配達サービス等スーパーに無いサービスを積極化している。
- ・店舗周辺エリアの顧客高齢化が進み、小売業の低迷が更に進んでいる。
- ・オリンピックの掛け声で良い雰囲気だが、年度末前後にも暇があった。今までにない不景気だ。

(4) 不動産業 36 <良い>



景況感 DI 値は、36P (前期比6P)と更に改善しました。収益の DI 値は22Pですが、前期比で $\Delta 16$ P悪化しています。次期景況感14Pは、今期比 $\Delta 22$ Pの悪化予想となっています。雇用人員は $\Delta 14$ Pと人手不足感が続いているますが、前期比では+9P改善しました。

☆事業者の主な声☆

- ・売上は前年比10%増加した。4・5棟現場を中心に、計画通り仕入れから1年以内の販売がなされた。今後も横須賀を中心に営業活動を行う方針。
- ・自社で手掛ける大型プロジェクトの販売が順調に推移した。増員し、物件仕入も順次行っている。
- ・自社プロジェクト物件は、値引きすること無く順調に販売できており、所定の利益確保を見込んでいる。今後も販売価格の値ごろ感を念頭に、好物件の仕入に注力する。
- ・都心部に並び、横須賀でも不動産価格の上昇が当面続くものと予想している。

(5) サービス業 0 <変わらない>



景況感は、「良い」という声が増え、 ± 0 P (前期比+15P)となりました。売上額、収益ともに DI 値は改善しています。次期についても、景況感の DI 値が18Pと大きく改善することが見込まれています。雇用人員については $\Delta 15$ P (前期比 $\Delta 1$ P)で、依然人手不足感が続いています。

☆事業者の主な声☆

- ・売上は前年比微増、連休の好天が要因と思われる。顧客の9割は地元の人で観光客は少数だった。
- ・天気に恵まれ、桜の開花時期を中心に家族連れなど大勢が宿泊やランチに訪れた。
- ・競合店との価格競争が厳しいが、値上げは客足の減少に直結するため、人件費を含め経費削減を徹底している。
- ・市内の景況はあまり良くなく、なんとかもう少し賑わってほしい。
- ・横須賀市内での仕事は減る一方なので、主眼を横浜に置いている。市内の発展に期待している。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成27年1～3月の景況感（調査時点 平成27年3月1日）
 今・・・今期 平成27年4～6月の景況感（調査時点 平成27年6月1日）
 次・・・次期 平成27年7～9月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	191	39	42	51	13	46
今期	177	40	34	49	14	40
次期	176	40	34	48	14	40

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業			
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																		
	良い(A)	21	22	22	36	35	25	17	18	26	16	8	13	38	36	14	15	25	28	
	変わらず	54	50	59	49	40	52	59	61	62	51	47	54	54	64	86	55	50	62	
	悪い(B)	25	28	19	15	25	23	24	21	12	33	45	33	8	0	0	30	25	10	
	DI値(A)-(B)	△4	△6	3	21	10	2	△7	△3	14	△17	△37	△20	30	36	14	△15	0	18	
	今-前、次-今	△2	9		△11	△8		4	17		△20	17		6	△22		15	18		
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																		
	好転(A)	24	22	28	41	40	33	21	21	41	16	8	20	38	36	14	15	18	25	
	変わらず	48	47	52	44	32	44	53	53	44	41	45	43	54	57	86	55	57	65	
	悪化(B)	28	31	20	15	28	23	26	26	15	43	47	37	8	7	0	30	25	10	
	DI値(A)-(B)	△4	△9	8	26	12	10	△5	△5	26	△27	△39	△17	30	29	14	△15	△7	15	
	今-前、次-今	△5	17		△14	△2		0	31		△12	22		△1	△15		8	22		
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																		
	増加(A)	17	19	18	24	23	23	7	15	18	16	12	12	46	36	14	13	20	20	
	変わらず	55	48	62	55	42	57	67	59	64	41	37	53	46	50	86	61	60	70	
	減少(B)	28	33	20	21	35	20	26	26	18	43	51	35	8	14	0	26	20	10	
	DI値(A)-(B)	△11	△14	△2	3	△12	3	△19	△11	0	△27	△39	△23	38	22	14	△13	0	10	
	今-前、次-今	△3	12		△15	15		8	11		△12	16		△16	△8		13	10		
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																		
	多い(A)	5	4	4	5	3	5	2	3	3	8	4	4	0	0	0	4	8	5	
	適正	68	73	73	59	67	60	62	65	65	68	82	82	77	86	93	78	69	75	
	少ない(B)	27	23	23	36	30	35	36	32	32	24	14	14	23	14	7	18	23	20	
	DI値(A)-(B)	△22	△19	△19	△31	△27	△30	△34	△29	△29	△16	△10	△10	△23	△14	△7	△14	△15	△15	
	今-前、次-今	3	0		4	△3		5	0		6	0		9	7		△1	0		
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																		
	楽である(A)	8	10	7	8	10	8	2	9	6	6	4	4	8	14	0	15	15	13	
	さほど苦しくない	71	66	74	71	80	79	74	59	70	61	55	65	92	79	100	72	70	72	
	苦しい(B)	21	24	19	21	10	13	24	32	24	33	41	31	0	7	0	13	15	15	
	DI値(A)-(B)	△13	△14	△12	△13	0	△5	△22	△23	△18	△27	△37	△27	8	7	0	2	0	△2	
	今-前、次-今	△1	2		13	△5		△1	5		△10	10		△1	△7		△2	△2		

〈参考〉昨年同期と現在の売上比較(回答 152社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	51社	33.6%	35.6%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	51社	33.6%	31.5%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	50社	32.8%	32.9%
DI値(A)-(B)		0.8P	2.7P

